



參  
考  
北條時頼記圖會

~13  
3930  
1



門 13  
號 3930  
卷 1



北條時賴記舊序

子思子曰上焉者雖善無徵無徵不信  
上世之變雖善矣人或不信之豈能以文  
獻之不足乎若原元間相摸守時賴北  
條公承父祖之緒仁厚莅下天下大安所  
謂善人之治國者也其能以貴不賤以  
柔則必萬之容巡行諸國憐居民之  
艱苦而交通有無觀農夫之耘耔而

大正十年八月廿九日  
本大學出版部 贈

補助不賑、祗器械之良竄、觀俗化之  
誠偽、察賢否之所在、徹改刑之美、設而  
其自脩恭儉、無可相然、是豈可以陪臣  
執國命、貶之乎哉、但歷年既久、文籍  
不多、傳于世、故紀錄著、采大槩、而漏其  
詳、是為可恨、今此書細大不遺、履歷  
畧備、如常世之事、雖或可疑、而公之勤  
懇、亦贊一言之拘、乃能振擢、摭緝、則亦可

禮必無其事、况於以傳於古人、自者任  
事、故推述作者之意、為作之序、讀  
者疑其可轉信、其可信而可也

皆元祿四重光協洽大簇穀且

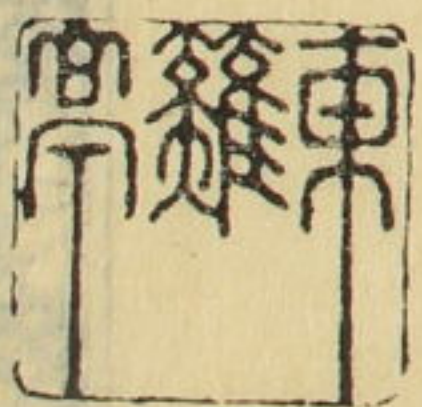
洛下隱士蓬累子撰



自

大徳代に書かれたる  
 文は、  
 其の  
 筆致、  
 清く、  
 雅く、  
 秀麗なり。

其の  
 筆致、  
 清く、  
 雅く、  
 秀麗なり。



東籬亭

参考北條時頼記圖會

總目次

卷一

時政參籠江嶋蒙示現  
 右大將頼朝州業鎌倉  
 比企判官謀欲伐北条  
 小御所合戰比企滅亡  
 仁田五郎逸断家名

實朝公補任三代將軍

卷二

戒壽丸幼智救人民  
 戒壽丸賢才戒從且  
 戒壽丸元服賜諱字  
 時頼蒙命勤流鑄馬  
 正覺房欽心索末期  
 頼副元服頼經上洛  
 時頼一言挫光時企

卷三

時頼憐無冤謀捕犯人  
 馳込狼籍重經隱顯  
 野父交争不私至財  
 松下尼質素解義景  
 鎌倉海陸種々怪異  
 三浦泰村隱謀露顯  
 時頼仁慈令解泰村  
 正治妻以死顯貞操

卷四

筋違橋合戦三浦滅込  
 上總推令秀胤自害  
 宗尊親王被任將軍  
 小次郎謀嶋田大藏  
 時頼慈惠復父之讐  
 時頼薙髮号最明寺  
 諏訪刑部射伊具入道

卷五

青砥左衛門尉藤綱傳

時頼藤綱閑於政道

藤綱令於滑川撥錢

時頼詠和歌鎮怪異

藤綱解是非返贈物

時頼六舟日禁殺生

時頼入道借出鎌倉

前帙五卷目次畢

參考北條時頼記圖會卷一

目錄

時政冬就江嶋家立現活

日影

并北條氏定後中氣附箱根注時年

右大將賴朝叶業德余活

并石揚山合錢年附八的系怪吳年

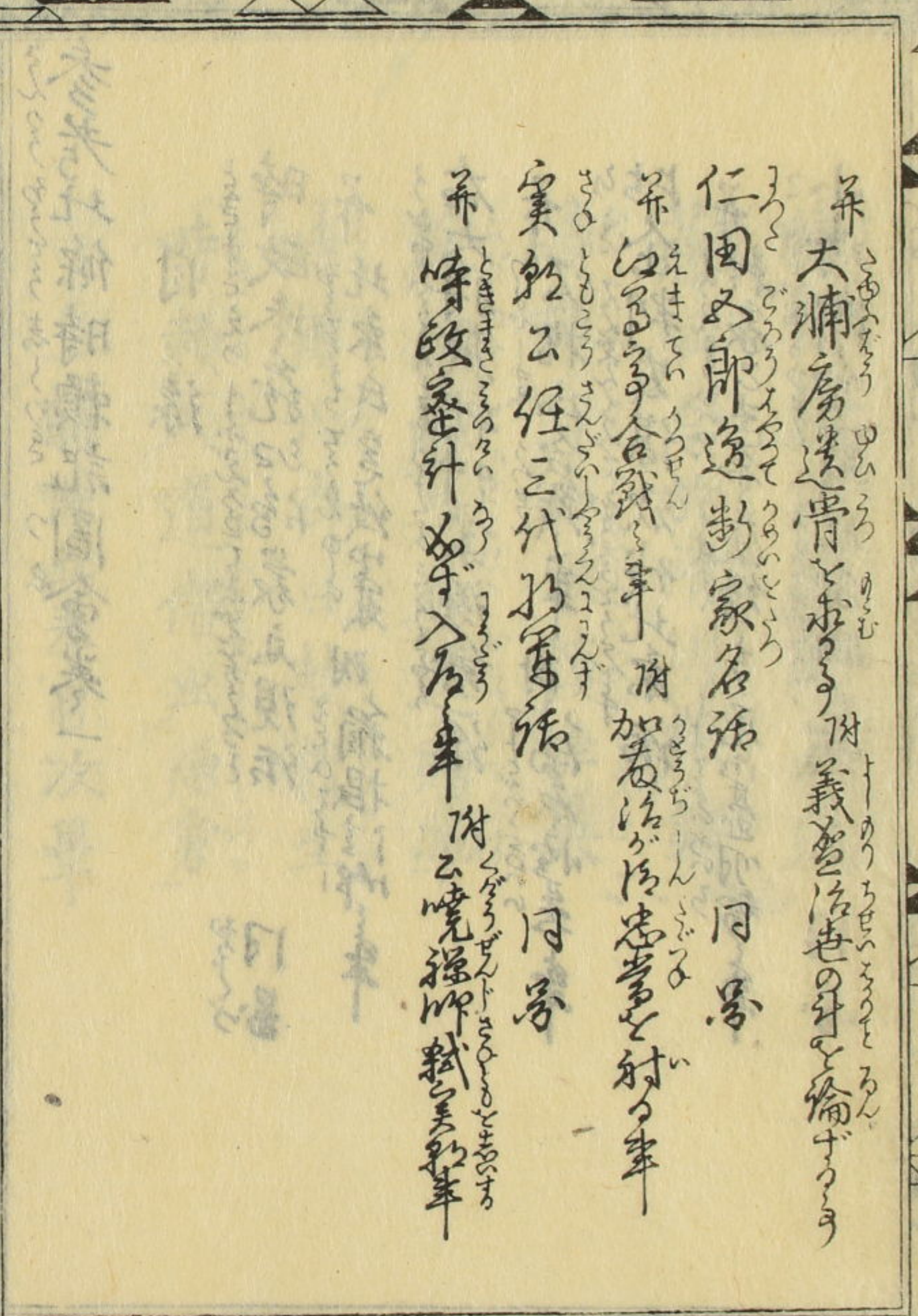
比企判友謀欲伐北条活

并賴家乙事命活揚多尾山甚明智年

小市所合錢比企滅亡活

日影

并大浦房送骨とあり 附 義忠治世の身と論ずる事  
 仁田又部逸彰家名活 同日号  
 并 加茂治が治忠堂と射る事  
 實朝公任三代將軍活 同日号  
 并 時政家計の事 附 時政強御執事の時



参考北條時頼記圖會卷一

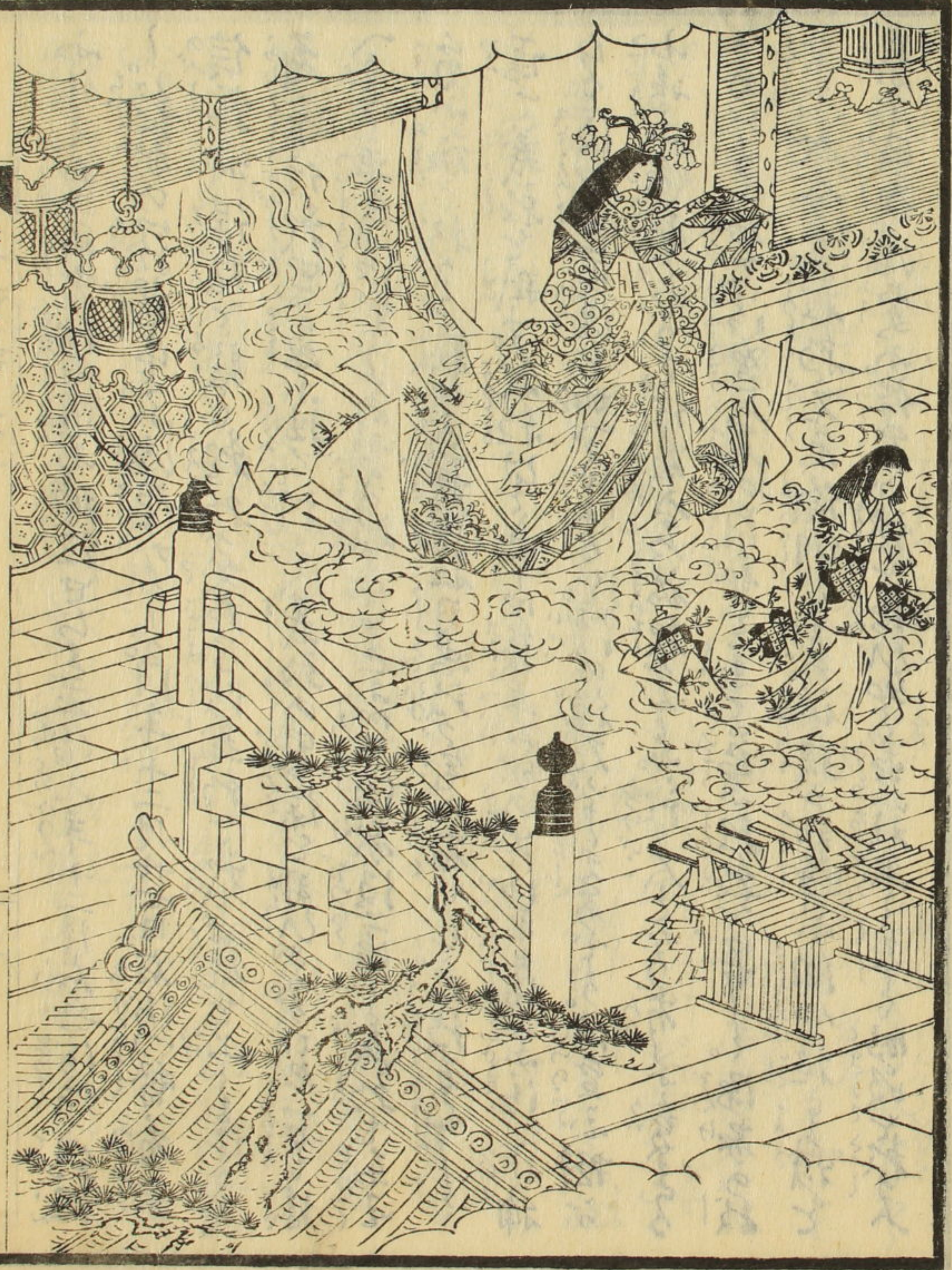
洛士 東笠離主人悠刪補

時政參龍江場家示現話

夫文武兩道天下治世之經緯 國家安民之綱紀也 乱時則良將逞武威而靜四海於太平之地 治世則明君修道徳而浴万民於淳化之沢矣 予爰征夷大將軍源頼朝御補翼の権臣伊豆國北条遠江守時政外也 予軍家執権として 九代連と相續く 栄花の春秋と称する 予始祖とある人 皇五十一代桓后天皇二代乃孫 高見王の男高望王六代の末裔時方伊豆國北条小位 始て北条と云て 氏を 其の及那時綱を子四郎大時家遠江守時政に別時家の嫡男とて 天原於例 隆明英才を文武友及 中秀達 亦不経氏と浄化して 其の自 家も亦なり 武時亦 格等小位 氏を 子 辨才と云て 天ふ 亦 氏







北條時政  
 尊天の  
 示現と  
 蒙る











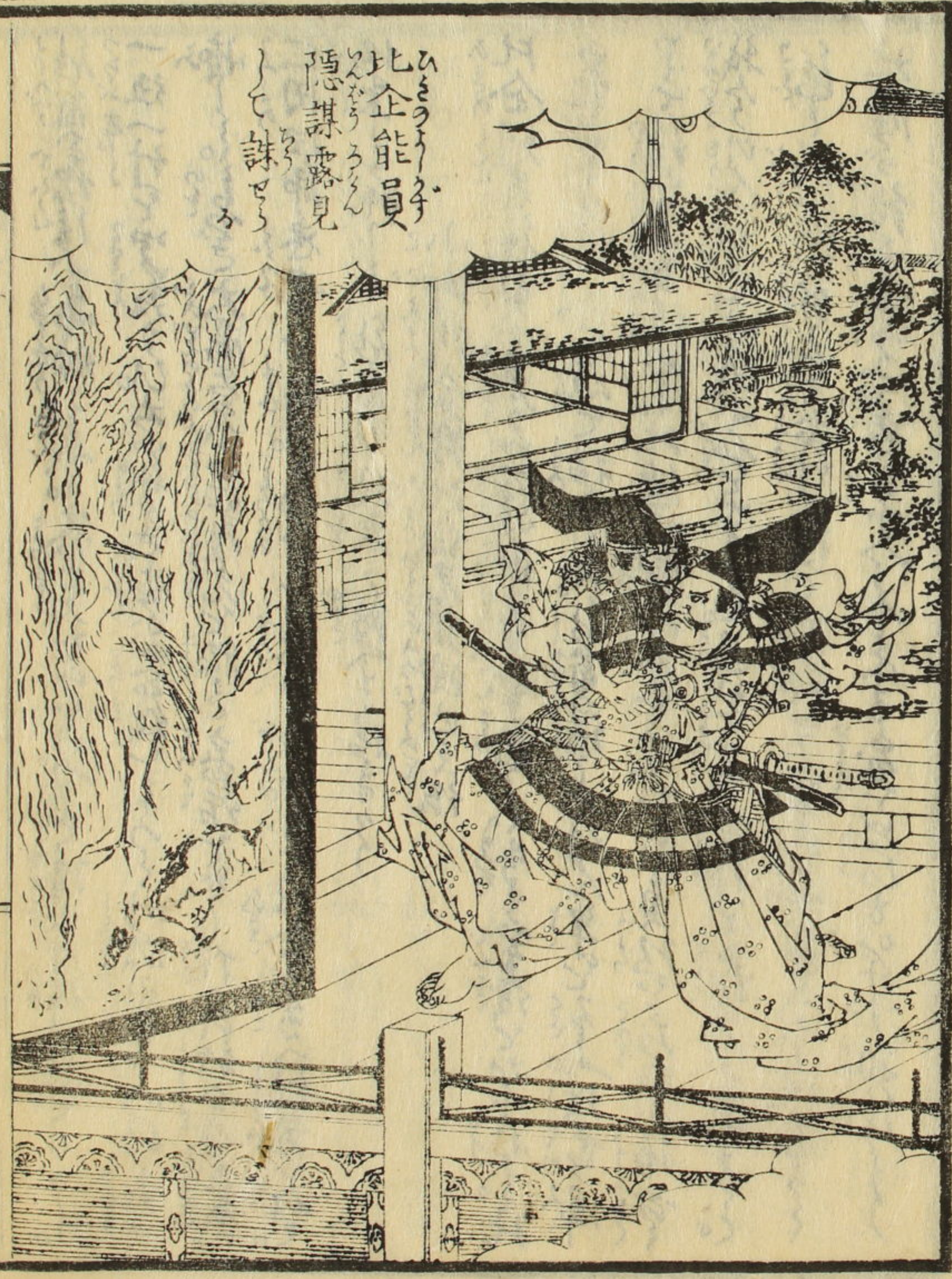
あし。二代將軍と崇め給ひ。その年小倉をめぐり。北条朝敵を討つ。其時  
執権職とせらる。天下の政務を掌持し。其時勢を以て十倍して大なる  
誰あつて肩を以て無かる。其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の  
賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。  
此企判官致運執事等諸紳等

左近衛中納言致運。二代の將軍小倉を以て。其時勢を以て十倍して大なる  
とせらる。其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。  
其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。  
其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。  
其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。  
其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。  
其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。  
其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。  
其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。

かたがて社前小死する。其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。  
其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。  
其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。  
其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。  
其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。  
其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。  
其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。  
其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。  
其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。  
其の事を拂え半と称し。其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。  
其政を以て教を以て示す。其時勢を以て十倍して大なる。其の事を拂え半と称し。  
其も亦才を天の賜也。其は白蓮宗の明令を以て示す。其政を以て教を以て示す。







ひとつう  
 比企能員  
 隠謀露見  
 して誅  
 る







夫不始て。吾乃のひひ一方たす。文武がひ人民を。若くは。
 うず。その。能負う。思得も。思の。後。夫。ふ。て。北。東。を。得。え。も。今。君。家。の。心。
 だ。次。己。後。業。を。計。ん。ん。あ。ら。う。あ。小。大。を。得。て。一。約。一。を。押。あ。り。て。人。の。大。
 下。小。事。利。天下。の。天下。わ。り。を。得。て。考。や。ら。な。人。時。政。の。烟。保。あ。り。も。即。今。
 多。事。う。さ。能。た。く。と。却。て。能。あ。ら。う。と。思。ふ。も。成。り。た。ら。ん。と。思。ふ。も。忠。を。
 かの。能。い。ま。さ。も。若。者。極。小。事。を。起。つ。と。事。万。若。と。清。き。後。人。と。竹。葉。あ。ら。ひ。
 日。年。如。此。補。渡。の。基。と。思。ひ。御。業。花。の。心。を。か。り。ひ。小。道。思。か。つ。の。心。
 文武。を。練。く。人。民。の。心。を。ま。ひ。つ。つ。今。北。東。乃。び。北。東。を。補。佐。し。ま。う。と。思。
 中。も。思。家。先。を。安。穩。に。お。も。と。す。も。後。小。北。東。の。民。族。を。思。ふ。人。心。忽。ち。
 難。ま。た。下。和。親。と。事。お。す。ま。う。石。如。け。と。思。ふ。も。北。東。を。若。く。と。思。ふ。も。思。
 退。け。た。り。少。少。推。た。さ。し。も。事。將。と。三。代。お。事。と。思。ふ。も。老。の。面。に。思。
 幼。老。補。佐。し。ま。う。後。今。北。東。内。保。と。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。

教。を。中。理。也。明。白。小。述。年。ま。は。日。希。若。者。を。物。く。と。思。ふ。も。思。
 念。と。事。即。と。言。せ。ら。う。あ。ら。う。け。し。と。思。ふ。も。先。小。北。東。を。小。山。の。心。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 と。て。義。重。と。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 事。重。と。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 先。利。不。在。を。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 ら。せ。う。と。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 り。義。重。と。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 忠。常。全。身。無。欠。亡。仁。田。家。名。活。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。
 思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。ふ。も。思。

















